

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		中村 英詞		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工科技術専門課程		自動車整備科		平成12(2000)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的	今後ますます進化する自動車(モビリティ)の電動化やIT化に対応できるスキルとして、コンピュータ・エレクトロニクスがわかる！クルマ(メーカーや車種など)を選ばない整備技術、そして社会に貢献できる人間力を持った”若きつくりびと”【二級自動車整備士(総合)】を育成することを目的とします。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	二級自動車整備士(総合)、危険物乙四、電気取扱特別教育、ビジネス能力検定3.2級、損害保険募集人試験基礎単位、アーク溶接、ガス溶接、MOS(Excel,Word)、第二種電気工事士、3次元CAD利用技術者2級 中退率: 7%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,088 単位時間	640 単位時間	168 単位時間	1,280 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率	
150 人	69 人		18 人		26 %		7 %	
就職等の状況	■卒業者数(G) : 28 人							
	■就職希望者数(D) : 25 人							
	■就職者数(E) : 22 人							
	■地元就職者数(F) : 15 人							
	■就職率(E/D) : 88 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)							
	68 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/G)							
	79 %							
	■進学者数 : 3 人							
■その他								
(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
ウエインストヨタ神奈川㈱、トヨタモビリティ東京㈱、日産神奈川販売㈱、日産東京販売㈱、ニボル・カーズ合同会社、トヨタS&D西東京㈱、神奈中相模ヤナセ㈱、㈱スズキ自販南東京、㈱ホンダカーズ中央神奈川、サコス㈱、㈱村内外車センター、関東マツダ㈱、㈱ホンダカーズ東京中央、㈱ホンダ東京西、鈴木自動車㈱、レゾリューション㈱、㈱イー・ビー・アイ・マーケティング								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 受審年月: 平成26年3月 等評価研究機構 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/technology/automobile/mechanics/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数					2,088 単位時間		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					360 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間		
	うち必修授業時数					2,088 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					360 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間		
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数					単位		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位			
うち企業等と連携した演習の授業時数					単位			
うち必修授業時数					単位			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					0 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					3 人		
	計					4 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					4 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎を学び、二年間で二級自動車整備士(総合)を目指す。また自動車新技術や現在の整備作業の傾向に合わせ、基礎実習はもとより、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力を身につけることを基本とし、適時編成委員会を開催し、企業から求められる人材育成を目的として企業ヒヤリングを行い、授業内容の改善を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
石井 秀和	東京都自動車整備振興会八王子支部支部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
鈴木 一美	株式会社カーライフハギワラ常務取締役 総括部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
外山 和弘	株式会社村内外車センターサービス課 次長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
山田 俊之	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
坪 裕光	日本工学院八王子専門学校 科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年09月25日 13:30～16:30

第2回 令和7年03月17日 13:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員の意見はもちろんのこと、自動車関連企業からのヒヤリングを活用し、現代の学生に自動車産業の重要性を伝えるために、各科目担当教員や職実教育連携非常勤講師などから新技術や業界知識の情報発信をし続け、将来自身が働く環境や取り扱う自動車について理解させ、国家資格合格へ向けた意識改革の一つとして取り組んだ。

また、編成委員を含めた産学連携により2024年度は全9回の企業特別実習(技術講習会)を行い、専任教員や学生に最新技術に触れる機会を定期的に確保。今後は整備士の在り方が大きく変わる事を予測し、将来活躍できる自動車整備士のスキルの再構築(電気・IT・ものづくり)や人財確保について更に委員会等で検討を重ね、人財確保での連携を強化し、両者が共にミライある若者を育成していくことで合意している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

赤岡自動車修理工場の赤岡氏、ジョーアンドアソシエイツの内久根氏、ホンダ東京西の松村氏、ダイハツ東京販売の関澤氏と1、2年各実習にて連携し、現在の整備作業の傾向に合わせ、自動車業界の知識、現場での実践力などの基礎自動車整備技術はもちろんのこと、社会人基礎力や人間力を企業目線において連携しながら指導を行い、産業界が求める人材育成として適切に評価を受けている。また、適時ヒヤリングを行い学科への詳細なフィードバックも行い、日々改善を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
エンジン等整備実習基礎1	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンの整備技術の基本を、作業を通して学びます。	ダイハツ東京販売株式会社
シャシ整備実習基礎1	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	株式会社ホンダ東京西
自動車整備実習基礎	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	ジョーアンドアソシエイツ株式会社
電装整備実習基礎1	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	株式会社赤岡自動車修理工場

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	自動車メーカー・販売における最新技術セミナー各種	連携企業等:	各自動車メーカー・販売会社
期間:	2024年4月～2025年3月	対象:	一級自動車整備科／自動車整備科 教員
内容	・2023年6月20日（火） 東京都自動車整備振興会多摩支所（国立市）において、東京都自動車整備振興会における「整備主任者技術講習（実習）」受講 ・2023年10月6日（金） 八王子市芸術文化会館（八王子市）において、東京都自動車整備振興会における「整備主任者技術研修（法令）」受講		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	AI研修	連携企業等:	株式会社グルーヴノーツ 赤星氏
期間:	2024年3月28日（木）	対象:	日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校 専任教員（一級自動車整備科／自動車整備科専任教員）
内容	AIの今とこれから、教育現場への活用		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	自動車メーカー・販売における最新技術セミナー各種	連携企業等:	各自動車メーカー・販売会社
期間:	2025年4月～2026年3月	対象:	一級自動車整備科／自動車整備科 教員
内容	・2025年7月 東京都自動車整備振興会多摩支所において、令和7年度整備主任者研修 ・2025年度中 八王子キャンパスにおいて、自動車メーカー、販売会社による「自動車技術セミナー」を複数回実施予定 ・2025年11月25日(火) いすゞものづくりサービストレーニングセンターにおいて「いすゞグループメカニズム学習会」開催予定		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	発達障害の理論と最新の話題	連携企業等:	調整中
期間:	2025年度中	対象:	テクノロジーカレッジ専任教員(一級自動車整備科／自動車整備科専任教員)
内容	近年、特別支援教育や障害者支援の現場は「発達障害」という概念を中心に進んでいます。様々なメディアで知られるようになった発達障害は、今なお、多くの研究が行われており、日々新しいことが判明しております。発達障害の基本的な情報に加えて、エビデンスに基づいた支援情報や近年提唱されている支援の考え方について学び、学校・カレッジ・学科・教員単独といった様々な階層での支援方法や現状を検討する事で、より良い学習環境を提供すると共により適切な指導力の向上を目的とする。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

1. 留学生支援・国際交流の充実

評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。

2. 教育内容・学習環境の向上

委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

3. 地域連携・社会とのつながり

地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

4. 多様な学習者・進路支援への対応

委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。

5. 学生支援・メンタルヘルスの充実

学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- ・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。
- ・地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
- ・教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
- ・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。
- ・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
オ丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)
公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)
公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 自動車整備科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネススキル 1	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるために学習します。	1	40	2		○		○		○		
2	○			ビジネススキル 2	就職活動への準備を行い、自動車企業研究を経て進路について考えます。	1	80	5		○		○		○		
3	○			資格対策講座	各種資格の合格へ向けた講座です。	1	24	1		○		○		○		
4	○			自動車技術	自動車を構成しているエンジン・シャシ・モータ・電子電気装置の部品・構造・機構・動作原理について学びます。	1	80	5	○			○		○		
5	○			自動車基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1	80	5	○			○		○		
6	○			自動車整備基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎について学びます。	1	80	5	○			○		○		
7	○			自動車整備機器	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備に用いる機器工具及び使用方法について学びます。	1	80	5	○			○		○		
8	○			エンジン等整備実習基礎 1	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、モーター等の整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1	72	2			○	○		○	○	○
9	○			エンジン等整備実習基礎 2	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、モーター等の整備技術を、作業を通して学びます。	1	72	2			○	○		○	○	
10	○			シャシ整備実習基礎 1	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	1	72	2			○	○		○	○	○
11	○			シャシ整備実習基礎 2	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術を、作業を通して学びます。	1	72	2			○	○		○	○	
12	○			自動車整備実習基礎	自動車のエンジン等整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	1	144	4			○	○		○	○	○
13	○			電子制御実習基礎	自動車の電子制御技術の基礎を実習を通して学びます。	1	56	1			○	○		○		

14	○		電装整備実習基礎 1	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	1	72	2		○	○		○	○	○
15	○		電装整備実習基礎 2	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1	72	2		○	○		○		
16	○		国家 2 級合格講座	二級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です	2	24	1	○		○		○		
17	○		自動車工学	自動車のエンジン等・シャシ・電子電気装置などの動作原理と部品について詳しく学びます。	2	80	5	○			○		○	
18	○		自動車整備技術	エンジン等・シャシ・電子電気装置の整備方法を学びます。	2	80	5	○			○		○	
19	○		自動車総合技術	最新の電子制御技術など自動車に搭載されている技術について総合的に学びます。	2	48	3	○			○		○	
20	○		自動車検査基礎	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2	32	2	○			○		○	
21	○		自動車整備法規基礎	自動車整備に関する法規の基礎を学びます。	2	32	2	○			○		○	
22	○		エンジン等整備実習 1	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとディーゼルエンジン、HVやEVモータの整備技術を学びます。	2	72	2			○	○		○	○
23	○		エンジン等整備実習 2	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとディーゼルエンジン、HVやEVモータの整備技術を、より実践的に学びます。	2	72	2			○	○		○	○
24	○		自動車総合整備実習	実習車両を使用して、総合的な整備作業について学びます。	2	120	4			○	○		○	○
25	○		シャシ整備実習 1	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を学びます。	2	72	2			○	○		○	○
26	○		シャシ整備実習 2	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を、より実践的に学びます。	2	72	2			○	○		○	○
27	○		電子制御実習	自動車のエンジン等・シャシを制御する電子制御の原理を具体的に学びます。	2	56	1			○	○		○	
28	○		自動車総合整備	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2	48	3	○			○		○	

29	○			自動車検査実習	実習車両を使用して、自動車検査作業について学びます。	2	40	1			○	○		○	○	
30	○			電装整備実習 1	実習車両を使用して、自動車の電気装置に関する部品の特性を理解することと、その電子制御装置の整備技術を作業を通して学びます。	2	72	2			○	○		○	○	
31	○			電装整備実習 2	実習車両を使用して、自動車の電気装置に関する整備技術を、より実践的に学びます。	2	72	2			○	○		○	○	
合計						31	科目	2088時間 単位 (単位時間) 84単位								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目2088時間(84単位)取得すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：1年次は必須1096時間履修すること。 2年次は必須992時間履修すること。		1 学期の授業期間	15 週

注1. 週授業時間数は年間40週で計算。

注2. 45分を1時間として計算。